

静岡ブルーレヴズ ラグビースクール

2026年 釜石遠征活動レポート 2026.9.19 – 20



遠征目的

- ともだちジュニアマッチによる
同世代選手と交流し、絆を深める
- 震災学習を通じ、東海地区に住む
子供達の防災意識を高め命を守る

9/19

- いのちをつなぐ未来館見学
- 宝来館 岩崎さん講話
- 交流会

9/20

- ともだちジュニアマッチ
- アフターマッチファンクション

Special Thanks

今回、静岡ブルーレヴズラグビースクールの子どもたちとともに釜石を訪れ、震災について学び、そしてラグビーを通じて多くの仲間と交流することができました。

震災以降に生まれた子どもたちにとって実際に釜石の地を訪れ、直接見て感じ、震災を経験された方のお話を聞くことができたことはとても貴重な経験となりました。

交流会では緊張した様子も見られましたが、時間が経つにつれて笑顔が増え、ラグビーを通じて自然と仲を深めていく姿が印象的でした。

この遠征を通して子どもたちは震災について学びやラグビーの人と人をつなぐ力を改めて感じたことと思います。

2011年の震災をきっかけに始まったこのつながりが、15年を経て今では子どもたちの交流へと受け継がれています。

このご縁を大切に、これからもラグビーを通じてたくさんの笑顔と絆を繋いでいってほしいと思います。

最後になりましたが、今回の遠征にご協力いただきました釜石市の皆様、日本製鉄釜石シーウェイブスならびに弘前サクラオーバルズの皆様、そしてこの遠征を実施するにあたり多大なご支援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

静岡ブルーレヴズ(株) ラグビー普及部 伊東 力

Special Thanks

釜石遠征 支援企業 一覧

株式会社東海トラベル 様

<https://www.tokaitravel.co.jp/>

株式会社WRS JAPAN 様

<https://wrsjapan.com/>

株式会社グリーンワークス 様

<http://www.greenworksinc.jp/>

株式会社ジェイ・プラッカ 様

<https://www.j-placa.jp/>

株式会社テクイジデザイン 様

<https://www.tekuiji.jp/>

【 行程 】 ～1日目～



06 : 20 浜松駅出発

08 : 37 東京 → 盛岡

11 : 45 盛岡 → いのちをつなぐ未来館

14 : 00 いのちをつなぐ未来館 ▶ **震災学習**

15 : 20 いのちをつなぐ未来館 → 釜石ベイシティホテル

16 : 00 釜石市民ホールTETTO ▶ **宝来館岩崎さん講話**

17 : 00 釜石ベイシティホテル

18 : 00 釜石市民ホールTETTO ▶ **交流会**

19 : 30 釜石ベイシティホテル

21:00 消灯



【 行程 】 ～2日目～

06 : 30 朝食

07 : 30 ホテル出発 🦶🦶 🚗

08 : 20 釜石鵜住居復興スタジアム到着

09 : 30 ともだちジュニアマッチK.O

▶ vs釜石シーウェイブスアカデミー・弘前サクラオーバルズ合同

11 : 00 アフターマッチファンクション

13 : 20 釜石鵜住居復興スタジアム出発

15 : 20 新花巻出発

19 : 03 東京駅出発

20 : 27 浜松駅到着 解散



震災学習

■いのちをつなぐ未来館



震災当時、学生として実際に被災された川崎さんから、当時の地震や津波がどのような状況だったのか、また、避難する際にどのような行動を取ったのかについてお話を伺いました。

子どもたちは、実際の経験に基づくお話に真剣に耳を傾け、災害時には自分自身で状況を判断し、考えて行動することの大切さを学びました。



■宝来館 岩崎さんの講話



ともだちジュニアマッチ

■ 交流会



翌日に行われる「ともだちジュニアマッチ」で対戦する、釜石シーウェイブスアカデミー、弘前サクラオーバルズの皆さんと交流会を行いました。はじめは少し緊張した様子で、なかなか会話が弾まない場面もありましたが、食事やゲームを通して少しずつ打ち解け、次第に笑顔も増えていきました。お楽しみ抽選会では大いに盛り上がり、チームの垣根を越えて交流を深めることができました。



Next ともだちジュニアマッチ▶

ともだちジュニアマッチ

(中学生交流試合)



静岡ブルーレヴズラグビースクール



釜石シーウェイブスアカデミー



弘前サクラオーバルズ

静岡ブルーレヴズ
ラグビースクール

20-26

釜石シーウェイブス
アカデミー
弘前サクラオーバルズ
合同

<静岡ブルーレヴズラグビースクールメンバー表>

氏名	フリガナ
荒川 廉汰朗	アラカワ レンタロウ
植木 一心	ウエキ イッシン
川井 悠仁	カワイ ハルト
河島 新	カワシマ アラタ
©窪田 純	クボタ スミ
佐藤 航平	サトウ コウヘイ
永田 誓	ナガタ セイ
中野 晴琉	ナカノ ハル
中村 來也夢	ナカムラ ラアム
南雲 謙心	ナグモ ケンシン
橋本 孝太郎	ハシモト コウタロウ
原 颯汰	ハラ ソウタ
日比 龍星	ヒビ リュウセイ
平野 颯大	ヒラノ ソウタ
村松 研吾	ムラマツ ケンゴ
池谷 斉時	イケガヤ セイジ

ともだちジュニアマッチ



当日は台風の影響で悪天候でしたが、なんとか開催され試合の時間帯には雨も止んだ状態でゲームに入ることができました。

お互いに良いプレーもたくさんあり自分たちが取り組んでいるプレーや意識していることなどチャレンジすることができたと思います。前日の交流会やアフターマッチファンクションを通じてプレー面ではないところでも良い刺激を受けているように感じましたし、この遠征でまたひとつ成長できたのではないかと思います。

釜石シーウェイブスならびに弘前サクラオーバルズの関係者の皆様、本当にありがとうございました。

保護者の皆様におかれましてもご理解とご協力のほど、いつもありがとうございます。

今後とも宜しくお願い致します。

監督 伊東力

スクール生レポート (震災学習)



■宝来館 女将(岩崎さん)の講話

自分の命はじぶんでまもる サイレントにはいろいろな種類がある。日頃の言動や行動力を大七刀にしたほうがいい。じんの本と毎年ブルーリーブズがきて言式合をいそぐおと元気をもらえた。最後は自分のはんたんできめる。

去年の作文で糸井理大臣賞をもらったのが「焼津の小学校3年生」。
その作文はかま石の津波被害のことをたいていにした「はしかとへ」
という本で書いた。7月31日の東日本サイレンが「急」になった。
カムチャツカ半島の地震。サイレンには種類がある。
東日本大震災当日時のように15分では26mもの津
波が来た。スマホやテレビはなるなからたけおしサイレンが「急
たらしい」サイレンが「3秒」なると2秒はあったら津波が「来る」と思っている。

女子采は、焼津の人が書いた作文を教えてくれた。その時、七月三日に、注意報がなつて、そのこのお母さんが「人ごもいいから生きろ」と言つて、そこは、それを聞いて、なつて、そつとなつたことと言ふのにな、と思つたらしい。そのころはとなりの奥まご(21才)と言つていた。

震災は、なとで自分だけ生ると言ったりするのはなと分かる
くなくともある。

三ヶ入そく

自分に責任をもって行動することが

みんなを助けることにつながることも学んだ。

津波は地しんが近くでおきたら来ることはない

外国の地しんびの津波も来る。

サイレンには種類があり、サイレンの音が矢豆いほどあぶないことを知った。

女将さんの話で思ったことが3つある。

一つは、地しんのこと。自分が住んでいるところは、津波がくる心配はないけれども、サイレンは、なるけどもしめるいかにどうかいふからなからたけれど、サイレンは、矢豆、けれど、矢豆い、ほど、矢豆、だということをおぼれた。

じしんは来てほしくないけれど、もしものためにじゅんびをしておきたい。

・ おかみさんたちが大切にしていることは命でんごんごというので、これは、災害が起きたときの三原則で、おかみさんたちは生きのこれた。

・ 地しんや津波がおきて、最初にきたのは鹿た。た。

・ おかみさんは朝おきたときに緊急津波速報がながれていて3m以上といっていたが30m以上も来ていた。

・ おかみさんはク代先のことを考えて生きろという言葉をも大切にしている。

お話を聞いて震災の影響で町がめっちゃくちゃになっても地域の
金石市民みんなが悲しくてくやしい思いをしながらも立ちあがり町
を復興を協力していくところかすごいと思いました。

がいの小学校3年生がそうした"いんしあ"をもらってすごいと思った。

サイレンにはゆりかがありくねくねは3秒 ちいほは10秒もなると知った。

金石にはさいて26mの高みからきたことにおどろいた。

てつはせかいにみんなと知った。

自分で、自分の命を守る。自分の行動に責任を持つ。

実際に起きた災害の話、地震がなりの注意報がな、た
3メートルの津波注意報だったのに30メートルほどの津波がきた。

このようなことがいつきてもおかしくないのが、町の避難訓練に

参加することが大切。外国で起きた地震でも日本に
津波が来る恐れがある。

女将の講話で特に印象に残ったのは、東日本大震災が起
きて建物が無くなり住人の笑顔も消えみんなの元気を取り
戻すためにラグビー場が建設されてワールドカップに使わ
れた話でした。私自身も震災の経験は、今までないけれど
これからラグビーをもっと頑張りたい金石の人達だけでなく沢山
の人達に元気を与えられるラグビー選手になりたい
と思いました。

3 規則・・・自分で命をまもれ

サイレンには重要な頁がある。地震が起きなくても津波は来る。2011年3月11日、大相模湾に面した「宝来館」は津波により2階まで浸水した。日本で津波が起きなくてもほかの国から津波がくることがある。いつかは明日来ると意識したほうがいい！3分前警報が鳴ったら津波がくる。釜石では140年前から鉄ずりが行われていた。

自分で自分の命を守る。自分の行動に責任を持って動けば、みんなが助かるということにつながる。
遠くの地震でも津波がくる。3メートル以上の津波は30メートルくらいの高さになることがある。学校でちゃんと勉強をする。明日起きるかもしれないという覚悟を持っておく。きけん(大)→サイレン(短)

静岡の小学3年生の子が岩手地震の絵本を読んで書いた読書感想文で前総理大臣賞をもらった。7月30日にトフセンサイレンが鳴りカムチャツカで地震があることをした。サイレンが鳴る訓練は年に1~2回あるという。7月30日のカムチャツカの地震による津波は、2~3mと報道されていたが実際には20~30mちかい津波だったそう。このように海外で起きた地震からでも日本には津波はくる。津波がきたらとは草とかレキがいっぱいあった。そしてここに最初にもどってきたのは人ではなくシカタ。また釜石の鉄は、世間の品質をほめて、釜石は、鉄と魚とラグビーの町だそうです。

■いのちをつなぐ未来館

釜石には11mの津波がきた。ちいさによつて津波の高さが変わる。いめんが"かたい"と"りれ"によい。死者行方不明者927人。地震が"おきて"20分くらいで津波がくる。津波や地震は"なんと"もく"りかえ"られず10mくらいある"防波"でもこえる。小さい地震でも"大きな"津波が"か"てくる。と"い"ちいさの"い"んで"も"津波が"か"てきた。避難訓練"訓練"は"最"耳又は人か"世"人"世"人"を"か"たけど"多く"の人が"くる"ようになった。た"た"て"き"と"う"に"か"る"た"け"だ"め"ちゃんとか"た"が"え"て"か"ん"な"ま"い"だ"め"お"き"る"ま"え"に"な"え"て"は"く、ひ"な"ん"く"ん"お"ん"は"た"い"せ"て

東日本大震災を伝えている中で、津波は広範囲にわたって、
毎分は1kmはなれているけれど、11mの津波が来た。
かまちは川に沿ってまちができています。その住居は密集地。
リアス海岸は津波は大きくなる。津波によりたてつけが壊れて、
死者・行方不明者数は42万人。津波は何回もくり返し
やってくる。10mのはうろういも津波で、これはたの小さいやうな
大きな津波がくるかもしれない。このことを津波地帯と
いう。とあるところ震でも津なみがくることをいって津波
という。防災センターに亡くなった人の196人のうち162人が
死んだ。防災センターという名前がついていて、それがな
りしてまじ人がたつた。防災センターのビルなんくるおんまで
まじからしんねんのは100人位になった。誤解がある。たう
死者も増えた。

これから起きる地震についてを教えてくれました。
これから地震を体験するから、いまからでも遅くないから、地震の準備をして行こうと言う事を教えてくれた。
実際に地震を体験した人は、あれは海ではなくて、黒い壁が迫ってきているような感じだったと
い、ていて、みんなは、自分の事だけではなく、小さい
子の手を繋いで一緒に逃げたり、自分達も大変の中
周りの事を助けながら、逃げたと言語てくれました。
実際に体験した人の言を聞いて、地震は
人の心を恐怖にさせるけど、人々の絆が深ま
たり助け合ったりと悪い事ばかりではなく、
心が温かくなることもあると言う事をし
りました。

リマス海岸では津波が来いことを知りました。
地い→海がひく→津波がくる→水が来る。
何回もくり返してくる。
小さいゆれでも長く続いている場合大きい津波が来る
地いには不安定になる。
大きな地いには家具がぶっ飛ばす。
この地いには2〜3分あたりとても長い。
このような小さな地いでも津波が来ることがあること
も知れて良かったです。

いのちをつなぐ未来館は、2019年3月にオープンした。
未来館は、地震や津波があったことの伝えや防災学習
のための場所だった。未来館で学習している中で一番
おどろいたのは、学校で地震発生から五分もたたないちに
生徒全員が校庭に集合し、自分たちで点呼していた
ことだ。ほとんどの学校でも防災訓練があったが、先生がいなくて、
行動できなくて、校庭に集まるまでに6分もかかってしまっていた。
同じ中学生なのに、ここまできがわか、と思っていた。
なので、ぼくは、ここで聞いた話を生かして、今後の生活に
生かそうと思う。

- ・ 8年前にこの未来館が建てられた。
- ・ この釜石市の場所には、こいがかめまこと31がなれたため、地震
- ・ この釜石市の地しんでの被害は947人、4282棟にまてになった。
- ・ 津波は一回もくるため、すぐバズとてはいけない
- ・ 18mもあるほうちゅうていを軽々とこわす
- ・ 1人+1地しんが長く続くと津波地しんの可能性があま
- ・ 釜石市では毎年ちていたがこなれた人多かつたが、色んなこと、あつた
おかげで100人くらいきつていた。たけと、自民は、防災センター
でおこなつていたためまちがった知識を植えつけてはつた、
- ・ 小、中学生の人たちは99.8%の人が、生きのこつたのは、
毎年自分たちだけでひなん訓練が出来ようになつていた
から。命をおとすことなくできた。
- ・ たから、ひなん訓練は、てきとういしてはいけない、

このお話を聞いて特に小中学生の命が全員無事だった
ことにおどろきました。当時の中学生の生徒が地震が来た
ときに自分たちで判断して校庭にひかんで点呼をおこな
い途中で先生が早くにけろと伝えてまだにけるか、けておく
小学生と手をつないでにけたら、園児たちをおんぶして
にけたあとつなみで家がこわれていくのを見て放心状態
になってしまってる人たちをせとくして高い山ににけた判断
かと協力に感動しました。

未来館では過去の被害や大変だったことだけでなく未来
の被害の対策などもみんなにつたえている施設。
未来館が建つ前は防災センターがもともと建っていた。
未来館の地区には11mの津波がきた。(2階建ての
家とおなじくらい。山が多く平らな地形ほとんど
なく津波は地震の揺れだけではなく地形にもよる
のです。両石湾は街に近づくごとに山と山の間が
小さくなっていくので津波の力が強くなっていく。
地面が柔らかいと地震の揺れが伝わりやすい。
死者が両石では27人。津波がくる20分前までは
海の水がどンドン引いていき20分後には津波が押し
寄せてきた。

震災の話しをしてくれた女性職員は、震災当時、中学生ぐらいだったそうで最初に避難した場所は、津波にのみこまれてしまい、当時の校長先生がさらに高台へ避難するように指示してくれたおかげで命が助かったと聞きました。このお話を聞いて、地震や津波は、とても恐ろしい物だと感じました。また、最初に避難した場所が安全だと思っても、油断してはいけないうことを学びました。小さな地震でも津波が来る可能性があるので、自分で判断して、すぐに高台など安全な場所へ避難することが大切だと思いました。僕は今回の講話を通じて、命の大切さと、周りの人の命を守るために行動することの大切さを学びました。これからは家族や仲間への感謝を忘れず、いざという時に自分大切な人の命を守りたいです。

当時は、美術館のところに、11mのつなみがきた。

しかも海から遠いところ！ じゅうたんがみっしゅうしていた。

つなみは地震の大きさではない、地形もかんけいしている。

地形がこんな形になっているのでつなみのサイズが大きくなっていく。死者、けが者合わせて1000人ほど。木で作られた物はすぐこわれる！ 小さい地震でも長く続く大きなつなみになる！

訓練をしていたが、参加人数が10人くらいでみんな訓練をしていなかった、そのせいで100人のせいをしてしまった。訓練はただやればよいというわけじゃない

地震は生きていれば必ずくる。東日本大震災では、11mの津波が来て一軒家を丸飲みされてしまった。津波が大量に来て平地がなくなってしまうほどだった。話を聞いて初めて知ったのは、地震の大きさで津波の高さがきまるわけではないということ。東地震では地面がやわらかいと揺れやすく、地面が固いほど揺れにくいことがわかった。東日本大震災での、死者、行方不明者合わせて927人というほぼ1000人という死者、行方不明がでた。20分、30分で波が街に来た。木造でつくりられている家は波ですぐこわれてしまった。波は一回もくるから1回来たからと油断してはいけない。小さい揺れでも大きな津波がくることがある。釜石市では子どもがあまり亡くなっていない。僕達が試合をする所にも津波が来ていた、被害を受けた所。練習場で話を聞いて思ったことは、一度来たからといって油断してはいけない。地震が起きたら周りの人をサポートする、されることも大事ということがわかった。

死者927人、亡くなった家屋4,282と、おそろいを知った。

こどもたちは99,800人だった。

サッカースタジアムにも2日前には1万人が来たという。

こどもたちがたまたまのは、ふたつから人を覚えていながらだったと思う。

小さい1万人でもつなぐのは大変なことも知ったからいける。

土地域によつて、被害が変わる。→何を準備するか考える。津波は、何度でもくるから、高い所に避難したら戻らない。津波は、小さい地震でもくる。正しい知識をもって行動することが大事。ちゃんと考えて避難訓練をする。ただただやるだけじゃ意味がない。工夫をしてやる。普段やっているところがでてくる。ラクビでも練習でやっていないことはできない。逃げるのがとにかく大事。自分の命は自分で守る。誰かに言われて行動するのではなく、自分自身で考えて行動し、命を守る。

未来館は2019年に建てられた。未来館は地震をつたえるための施設ではない。この場所にもうい津波(11mといふ)がきた。地形によつて津波の大きさは、変わる。この場所のことをリアス海岸という。死者・行方不明者は92人。その内の500人でいどがこめたりでなくなっていたり、行方不明になっている。津波は引き波をおこしてなんともおそってくる。10m位のぼうちやうでいでもすくおされてしまう。津波地震といつて小さなゆれでも大きな津波がくることもある。海外でおこった地震で発生した津波を遠地津波という。このせつ(防災センター)にひなんしてきた人の数が196人。それから地震、津波によつて160人以上がなくなつた。しかし釜石だと3000人中99.8%の人々がたすかつた。ういの地震はかなり長く、止つてくれないうほどの地震が2~3分ていど続いた。ういの生徒達は先生の指いがなくても自分達で考えて行動していた。そして地震の中では海のしおのニオイと氷のニオイがまざつたようなドブのニオイがした。そんな中でも、みんなて協力してにげて最終的に海はつ44mのところまで上つた。指いされたことだけをやるのではなく、自分で考えて行動することが大切。

【大漁旗】

静岡と釜石の絆を繋げていく象徴として2022年に作成。
この大漁旗には、静岡の象徴の「富士山」と釜石の象徴の「はまゆり」を織り込んでいます。

また静岡ブルーレヴズと釜石シーウェイブス両エンブレムの間には、ラグビーボールを描き、ラグビーを通じて育んできた友情、絆を表現。

この先も静岡と釜石の絆を紡いでいくことができるようにと願いが込められています。



